

FUSO REPORT



第69期 報告書



扶桑化学工業株式会社

2025年4月1日から2026年3月31日まで

証券コード 4368



日頃より格別のお引き立てを賜り

誠にありがとうございます。

ここに2026年3月期*の
当社グループの事業概況等を
ご報告させていただきます。

* 2025年4月1日～2026年3月31日



代表取締役社長

杉田 真一

代表取締役会長

藤岡 実佐子

2026年3月期の業績について

当連結会計年度における世界経済は、インフレ圧力の緩和を背景に全体として緩やかな成長を維持しましたが、金融政策の転換局面や地政学リスクの影響により、回復の足取りには地域差が認められました。米国は企業活動や政府支出に支えられ底堅く推移した一方、高金利の影響から雇用や消費の伸びは鈍化しました。中国は不動産市場の調整により内需が低調となる中、輸出が下支えとなり一定の成長を確保しました。日本は企業収益の改善を背景に緩やかな回復基調を維持しましたが、物価上昇が個人消費に影響を及ぼしました。

このような情勢の下、当社グループは、持続可能な成長を目指し、国内外での事業拡大と効率的な運営体制の構築を推進しました。営業面では、海外拠点との連携強化や製品管理・販売体制の効率化を促進し、現地生産や技術サポートを活用した市場拡大に取り組みました。生産面では安全操業・安定生産を継続しつつ、鹿島事業所において超高純度コロイダルシリカの新製造設備の稼働を開始し、新設備の立上げを通じた生産能力の向上に取り組みむと同時に、顧客からの認証取得に向けた対応を進めました。また、これらの生産体制強化と並行して、中長期的な事業

継続および従業員の就業環境改善を見据え、大阪工場の耐震補強工事ならびに鹿島事業所の分析棟の新設工事を進めました。さらに、今後の需要拡大に備え、京都事業所における超高純度コロイダルシリカの生産設備の新設、ならびに米国子会社PMP Fermentation Products, Inc.におけるグルコン酸ナトリウムの増設投資を決定しました。

研究開発にも一層力を入れ、東京研究所の増床を実施するとともに、研究開発体制の強化を図りました。ライフサイエンス事業部でコート有機酸や食品添加物製剤といった高付加価値品、電子材料事業部で半導体の微細化・多層化・高性能化といった技術的課題に対応できる製品開発、中空シリカ等の新製品開発にそれぞれ注力し、多様な分野での事業展開を進めました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、769億2千6百万円（前連結会計年度比10.7%増、74億2千4百万円増）となりました。利益面では、営業利益は188億5千万円（同16.1%増、26億2千万円増）、経常利益は195億7千3百万円（同18.2%増、30億1千1百万円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は143億1千1百万円（同23.1%増、26億8千8百万円増）となりました。

今後の展望について

〔ライフサイエンス事業〕

国内市場では、食品用途の販売は一定の堅調さは保っているものの、競争は一段と厳しさを増しております。工業用途や日用品用途での需要は一部回復傾向が見られましたが、全体としては低調な結果となりました。またインパウンド需要の落ち込みによりビタミンC類の販売も力強さに欠け、医薬品ビジネスも厳しい状況にあります。海外市場では、欧州向けのリンゴ酸や米国でのグルコン酸類でのシェアが回復したほか、

中国を始めとするアジア地域を含め総じて堅調に推移しましたが、海外メーカーとの競争は一層の厳しさを増しております。中東情勢の不安定な状況による原材料の調達や輸送コストなどへの影響には迅速に対応してまいります。

事業部全体でより綿密な連携が取れるよう、2026年度から組織体制を一部刷新しました。これによって、事業戦略と海外運営における意思決定の迅速化を図り、調達から出荷まで業務の効率化を実現します。また、国内外のお客様や研究機関との連携を深め、新たな価値創造に繋げるべく、2026年2月には東京研究所を拡張し、充実した実験・分析スペースとテストキッチンを備えました。

販売面では、既存ビジネスに加えて、飼料や農業用途などの新規用途開拓を進めます。また、海外リンゴ酸ビジネスにおいて、引き続き新規取引先の販売を強化して物量を増やし、事業全体で利益が最大化できるような事業運営を進めてまいります。

海外では、米国の連結子会社PMP Fermentation Products, Inc.において、設備投資(2027年7月操業開始予定)を行います。今後も拡大が見込まれる米国内のグルコン酸類の需要に応えられるよう、安定した供給体制を構築していきます。中国では日持ち向上剤や水産加工品向け品質改良剤といった製剤の拡販に努め、タイからは需要の高まる周辺国にもビジネスを展開していきます。

今後も、果実酸総合メーカーとしてこれまで蓄積してきた販売チャネル、製造・開発ノウハウ、およびグローバルなネットワークを最大限に活用し、市場のニーズにいち早く応えることで、さらなる売上および利益の拡大に尽力してまいります。

[電子材料事業]

半導体市場はAIやデータセンター向けの旺盛な需要が全体を牽引し、大きく成長しました。また、従来の微細化の進展や高積層化に加えて、先端パッケージ技術など後工程でも高性能化が進み、CMP(化学的機械的平坦化)の用途拡大が進んでいます。さらに、中国市場では旺盛な設備投資に牽引される形で半導体市場が拡大しています。このような背景を踏まえ各社の需要に応えることで、2025年度は当初想定以上の超高純度コロイダルシリカの出荷量を達成しています。

今後も拡大する需要や、新たに創出される需要の増加に対応するため、積極的な設備投資を進めております。2024年10月には京都事業所の新設備、また2025年8月には鹿島事業所に追加設備(Ⅱ期)が完成しました。なお、鹿島事業所の既存設備(Ⅰ期)については、既に高水準で稼働しています。さらに、半導体市況は今後も継続的な成長が見込ま

れることから、2026年3月には京都事業所に追加の設備増強を実施することを決定いたしました。2029年2月に設備の完工を予定しており、現生産能力の2割増となる見通しです。これら設備増設による生産能力増強に加えて、高濃度・高効率生産品目の拡充を進め、設備面および製品面の両側面から供給能力を強化してまいります。

研究開発では、従来どおりケイ素化学を基軸として多方面への事業展開を推進しています。半導体分野では、微細化や高集積化が一層進展しており、それらのニーズに対応すべく、様々な大きさや硬さ、表面修飾を施した粒子などの製品開発を続けています。また、半導体研磨用途以外にも、低誘電材用途やトナー外添剤用途など、様々な用途に貢献できる特徴的な材料の研究開発を進めています。

TOPICS 1

福知山市三段池公園総合体育館 ネーミングライツ取得

福知山市三段池公園総合体育館のネーミングライツを取得いたしました。

愛称をきっかけに、京都事業所がある福知山市の皆さまに、広く当社を認知していただくことを期待しています。



TOPICS 2

ライフサイエンス事業部 東京研究所拡張

東京研究所におけるライフサイエンス事業部の区画を拡張し、充実した実験・分析スペースとテストキッチンを備

えました。東京近郊という地理的優位性を活かし、国内外のお客様や研究機関との連携を深め、「果実酸®」を基盤としたライフサイエンス分野における新たな価値創造に貢献してまいります。





事業概況

SEGMENTS INFORMATION

ライフ
サイエンス
事業

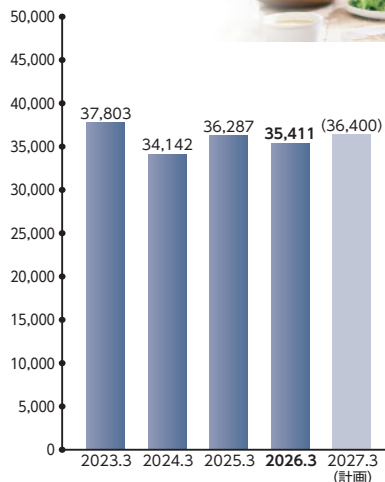
電子材料
事業

ライフサイエンス事業の業績は、外部顧客に対する売上高が354億1千1百万円(前連結会計年度比2.4%減、8億7千6百万円減)、営業利益は53億8百万円(同0.4%増、1千8百万円増)となりました。

国内市場では食品・飲料用途における果実酸類の需要は堅調に推移しましたが、医薬品や日用品用途の需要が軟化しました。海外市場では中国市場の低迷に伴う厳しい競争環境下、リンゴ酸のシェアアップや米国の市場拡大に取組み、アジアや米国を中心に販売が増加した一方、欧州での販売は伸び悩みました。その結果、売上高は前連結会計年度を下回りました。営業利益は、売上は減少した一方で、前期の鹿島事業所の定期修繕の長期化によるコスト増加要因が解消されたことに加え、原材料価格の低下や海外子会社の収益寄与により、前連結会計年度を上回り減収増益となりました。

電子材料事業の業績は、外部顧客に対する売上高が415億1千4百万円(前連結会計年度比25.0%増、83億1百万円増)、営業利益は159億2千6百万円(同20.9%増、27億5千5百万円増)となりました。

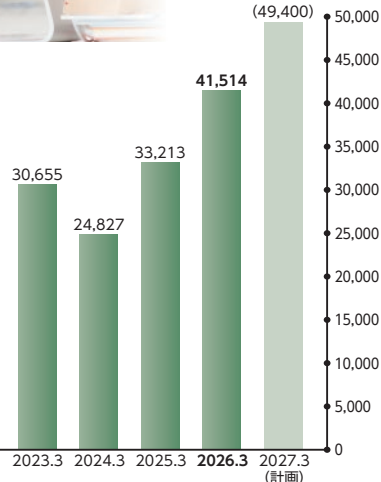
半導体市場の需要は堅調に推移し、特にAI用途を中心に拡大しました。主力製品である超高純度コロイダルシリカは、旺盛な需要に対して安定供給に努めた結果、販売数量が増加しました。売上高は、特にアジア向けの販売数量の増加により、前連結会計年度を上回りました。営業利益は、京都事業所や鹿島事業所の新規製造設備の稼働に伴い、減価償却費や立ち上げ費用が増加しましたが、売上増加、生産拡大による効果が寄与し、前連結会計年度を上回り増収増益となりました。



売上高
(単位:百万円)
354億1千1百万円 415億1千4百万円

売上高の比率(連結)

46.0% **54.0%**





←YouTube公式チャンネルで
説明動画を公開しております

社是：限りなき進歩と創造

- 経営信条**
- 一、信用を重んじ確実を旨とする
 - 一、技術を通じて国家社会に貢献し
 - 一、社業の繁栄によって従業員の豊かさを築く

長期ビジョン

- グローバルニッチトップ企業として進化する
- FUSOの技術で未来を支える
- 新事業創造に向けて限りなく挑戦する
- 「FUSOと出会えて良かった」を届ける

新中期 経営計画「飛躍2030」

(計画年度 2026年度～2030年度)

ライフサイエンス事業の 事業戦略

- グローバル連携の強化
- 調査・マーケティング施策の強化
- コアコンピタンスの強化・新規分野開拓
- 安定供給、品質保証の維持・強化

電子材料事業の 事業戦略

- 供給と品質の安定
- 最先端要求への対応
- コア技術を活かした新展開
- 基盤強化

生産本部の 生産体制

- 安定生産体制の強化
- 生産性の向上
- 顧客信頼の獲得
- 人的資本価値強化

市場価値の 向上

- 高いCAGRの実現
- ROIC経営への取組み

人的資本価値の 向上

- 新中期経営計画と連動した人材戦略の実行
- エンゲージメント向上 など

信頼価値の 向上

- 企業価値向上委員会を新設して推進・進捗を管理
- 新中期経営計画に紐づいた役員報酬制度設計

サステナブル価値の 向上

- 地域との共生
- GHG削減への取組み

企業価値向上への取り組み（ライフサイエンス事業）

強み：国内で希少な果実酸製造メーカー、海外市場売上比率50%超

グローバル連携の強化	中国ビジネス 東南アジア市場 米国・欧州市場	●海外子会社と一体になった事業戦略 ●食品添加物製剤のアジア向け拡販	●果実酸の海外市場シェア拡大 ●米国拠点の強化
調査・マーケティング施策の強化	自社製品販売強化 国内ビジネス成長 一人当たり収益の向上	●収益機会をもとめた市場の創出 ●一次産業向け市場開拓 ●生産の安定と能力向上を背景とした攻勢	●安定成長取引先深耕と開拓 ●DXによる購買管理体制強化・可視化
コアコンピタンスの強化・新規分野開拓	FFA*関連製品 酸化防止技術 有機酸の健康寄与技術	●フードロス削減減製品強化 ●健康・ヘルスケア分野のコース開拓	●超高純度果実酸の育成 ●新規技術・用途開発
安定供給、品質保証の維持・強化	製造品質強化 医薬品グレード供給体制 FUSOブランド力強化	●QMS (Quality Management System) 体制による製造品質強化 ●新規開発品の早期生産体制確立 ●ブランド浸透施策の実施	

企業価値向上への取り組み（電子材料事業）

強み：超高水準の材料を設計から供給、品質保証まで一貫して提供

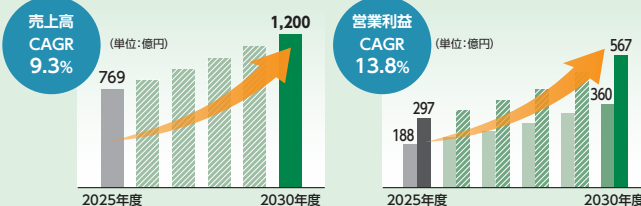
供給と品質の安定	設備投資対応 BCP対応 品質管理高度化	●需要動向を考慮した適切な投資時期判断 ●複数拠点での生産対応 ●原材料サプライチェーンの強靱化	●重要工程のロバスト化と設備保全の高度化 ●品質管理のデジタル化
最先端要求への対応	粒径制御技術 高純度化技術 材料設計技術	●次世代ノード、新材料への対応 ●ユーザーとの協業深化	
コア技術を活かした新展開	超高純度化 粒子設計・分散制御 精密分析・品質保証	●新たな機能性材料の開発 ●解析/評価サービスの向上 ●CMP*周辺用途、隣接分野への用途展開	
基盤強化		●ロードマップ型開発と、量産移管までの一貫した開発プロセスを整備 ●省エネ化、廃棄物低減、化学物質管理強化などの環境対応	

*FFA: Functional Fruits Acid (機能性果実酸) などの総称
*CMP: Chemical Mechanical Planarization (化学的機械的平坦化)

新中期経営計画（グローバルニッチトップに向けた財務目標）

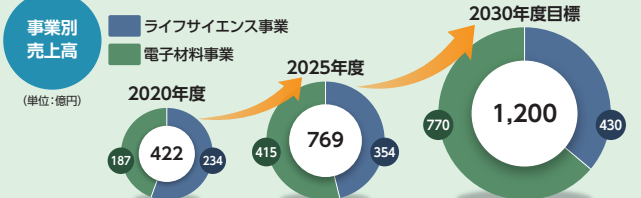
	2025年度実績	2030年度目標	CAGR*
新中計 全社目標			
売上高	769	1,200	9.3%
営業利益	188	360	13.8%
償却前営業利益	297	567	13.7%

*中期経営計画の前年度為替レート 1米ドル = 150円 ※全社の営業利益・償却前営業利益には、共通経費などの調整額を含む



	ライフサイエンス事業			電子材料事業		
(単位: 億円)	2025年度実績	2030年度目標	CAGR	2025年度実績	2030年度目標	CAGR
売上高	354	430	4.0%	415	770	13.2%
営業利益	53	75	7.2%	159	320	15.0%
償却前営業利益	69	95	6.5%	250	505	15.1%

*CAGR=Compound Annual Growth Rate (年平均成長率)





連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当連結会計 年度末 (2026年3月31日)	前連結会計 年度末 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産	78,476	67,052
現金及び預金	41,006	31,295
受取手形及び売掛金	16,626	16,046
商品及び製品	14,205	14,058
仕掛品	703	675
原材料及び貯蔵品	3,500	3,419
その他	2,433	1,556
固定資産	73,780	74,449
有形固定資産	64,540	66,982
建物及び構築物(純額)	25,492	19,435
機械装置及び運搬具(純額)	25,403	18,491
土地	8,442	8,433
建設仮勘定	4,188	19,567
その他	1,013	1,055
無形固定資産	5,490	4,006
投資その他の資産	3,748	3,460
投資有価証券	679	714
長期前払費用	434	540
繰延税金資産	1,897	1,720
その他	737	484
資産合計	152,256	141,502

科 目	当連結会計 年度末 (2026年3月31日)	前連結会計 年度末 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債	19,844	18,489
買掛金	2,836	3,073
1年内返済予定の長期借入金	4,000	3,100
未払金	2,684	2,625
設備関係未払金	5,429	6,207
未払法人税等	3,056	1,847
その他	1,837	1,635
固定負債	15,195	18,963
長期借入金	12,900	16,900
繰延税金負債	394	303
退職給付に係る負債	1,472	1,463
その他	429	296
負債合計	35,039	37,453

純資産の部		
株主資本	111,050	99,503
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	102,917	91,405
自己株式	△1,021	△1,057
その他の包括利益累計額	6,166	4,545
純資産合計	117,216	104,048
負債純資産合計	152,256	141,502

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (2025年4月 1日から 2026年3月31日まで)	前連結会計年度 (2024年4月 1日から 2025年3月31日まで)
売上高	76,926	69,501
売上原価	47,608	43,530
売上総利益	29,317	25,971
販売費及び一般管理費	10,466	9,740
営業利益	18,850	16,230
営業外収益	879	477
営業外費用	156	145
経常利益	19,573	16,561
特別利益	193	97
特別損失	238	391
税金等調整前当期純利益	19,528	16,267
法人税等	5,216	4,644
当期純利益	14,311	11,622
親会社株主に帰属する当期純利益	14,311	11,622

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (2025年4月 1日から 2026年3月31日まで)	前連結会計年度 (2024年4月 1日から 2025年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,793	22,701
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,069	△20,538
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,905	△2,409
現金及び現金同等物に係る換算差額	839	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,659	△246
現金及び現金同等物の期首残高	29,237	29,483
現金及び現金同等物の期末残高	37,896	29,237

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point 1

(連結貸借対照表)

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ107億5千4百万円増加し、1,522億5千6百万円となりました。これは主に、現金及び預金が増加したためです。負債については、前連結会計年度末に比べ24億1千3百万円減少し、350億3千9百万円となりました。これは主に、長期借入金を返済したためです。純資産については、前連結会計年度末に比べ131億6千7百万円増加し、1,172億1千6百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したためです。

Point 2

(連結損益計算書)

ライフサイエンス事業ではリンゴ酸の輸出や、米国での有機酸販売の拡大に円安効果も加わり、売上は堅調に推移しました。また、電子材料事業ではAI用途向けを中心とした半導体市場の拡大を受けて、超高純度コロイダルシリカの販売が大幅に増加したことで、売上高は前連結会計年度末の実績を大きく上回り、過去最高を更新しました。

営業利益については、超高純度コロイダルシリカの新設備投資に伴う減価償却費や立ち上げ費用が増加したものの、設備稼働の向上による物量増が大きく貢献し、前連結会計年度の実績を大幅に上回りました。

Point 3

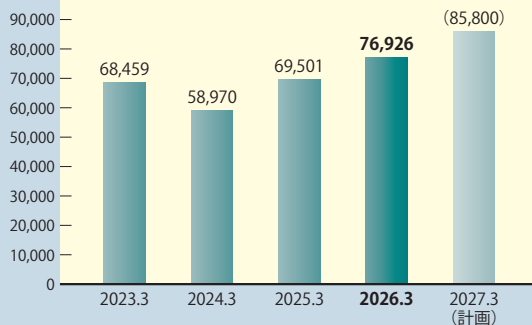
(連結キャッシュ・フロー計算書)

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前当期純利益および減価償却費の発生により取得した資金を有形固定資産の取得、法人税等の支払、配当金の支払等に充てた結果、前連結会計年度末に比べ86億5千9百万円増加し、378億9千6百万円となりました。

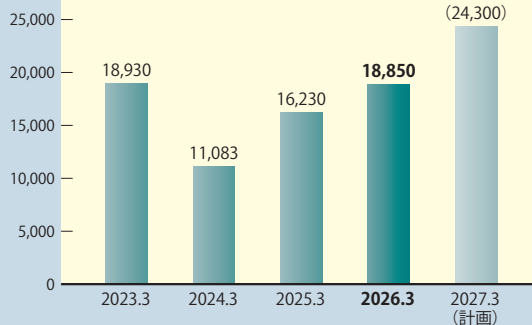


業績ハイライト 連結 FINANCIAL HIGHLIGHT

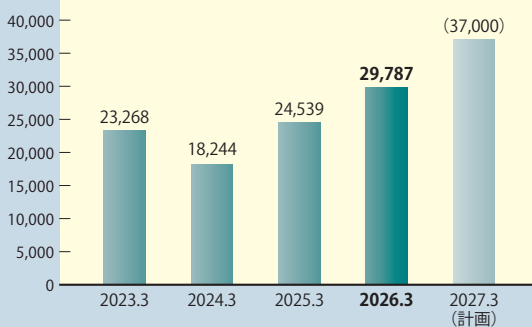
売上高 (単位：百万円)



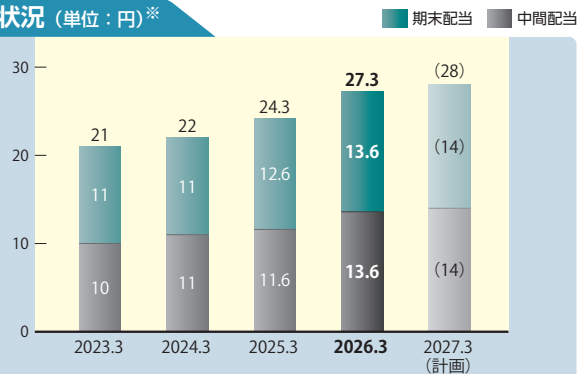
営業利益 (単位：百万円)



償却前営業利益 (単位：百万円)



配当の状況 (単位：円)※



業績の推移

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 (計画)
売上高 (百万円)	68,459	58,970	69,501	76,926	85,800
営業利益 (百万円)	18,930	11,083	16,230	18,850	24,300
経常利益 (百万円)	19,740	11,883	16,561	19,573	24,500
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	14,129	8,343	11,622	14,311	16,600
償却前営業利益 (百万円)	23,268	18,244	24,539	29,787	37,000
1株当たり当期純利益※ (円)	133.63	78.90	109.89	135.28	156.90

※2026年4月1日付の株式分割(1:3)に伴い調整を行っています。

株式の状況

(2026年3月31日現在)

●発行可能株式総数：95,000,000株

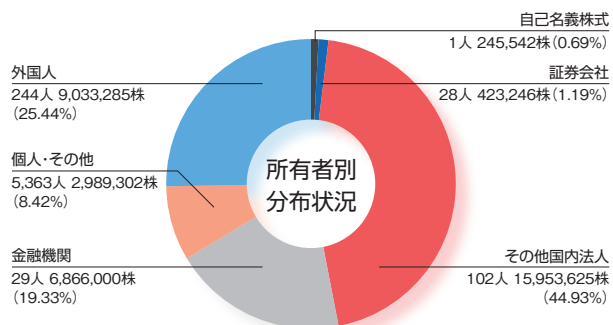
●発行済株式の総数：35,511,000株

(自己株式が 245,542 株含まれています。)

●株主数：5,767名

株主の分布

(2026年3月31日現在)



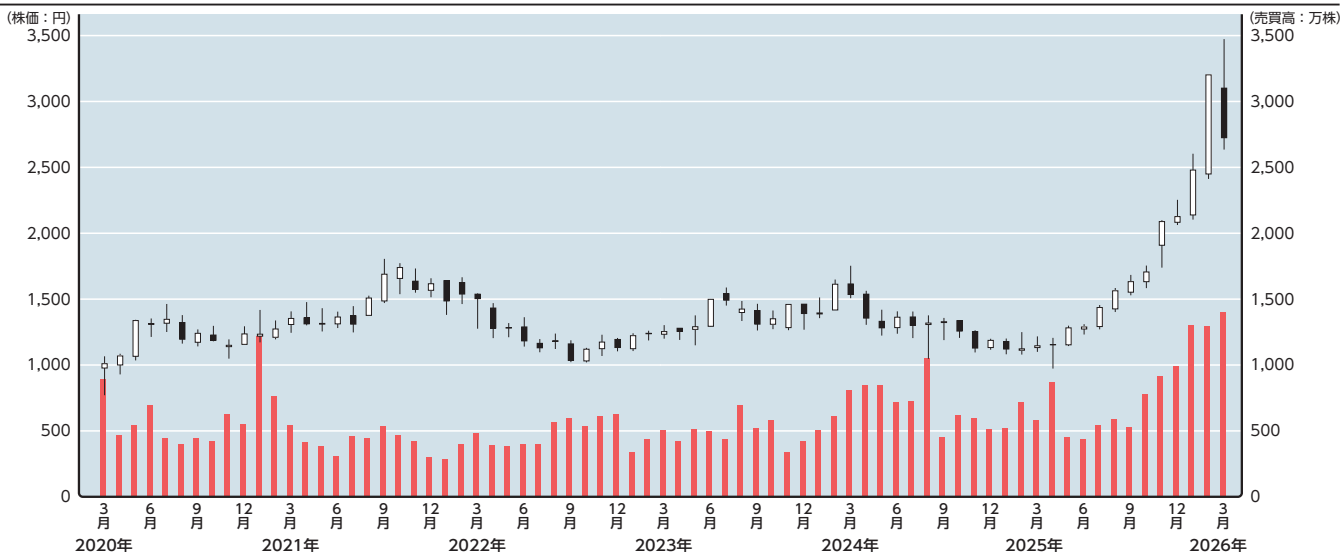
大株主

(2026年3月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.87%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.44%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,242,400	9.19%
株式会社薫風舎	2,621,665	7.43%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,299,500	6.52%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,490,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.90%
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	1,008,992	2.86%
公益財団法人赤澤記念財団	1,000,000	2.84%
US BANK NATIONAL ASSOCIATION JP ACCTS TS	708,800	2.01%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

株価の推移



※2026年4月1日付の株式分割(1:3)に伴い調整を行っています。



会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜三丁目5番29号
(日本生命淀屋橋ビル 16階)
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所
 - 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
 - 京都事業所
 - 京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
 - 京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
 - 鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
 - 神戸研究所 兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番16号
(神戸医療機器開発センター207)
 - 東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号
かながわサイエンスパークR&D棟
 - 大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
- 主要子会社
 - 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
 - PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
 - FUSO (THAILAND) CO., LTD.(タイ)



役員

(2026年6月23日現在)

■取締役

- 代表取締役会長 藤岡 実佐子
- 代表取締役社長 杉田 真一
- 専務取締役 政氏 晴生
(ライフサイエンス事業部長)
- 常務取締役 藤岡 篤
(経営企画部長)
- 取締役 梶本 源樹
(電子材料事業部長 兼 電子材料本部長)
- 取締役 伊藤 裕之
(管理本部長)
- 取締役 宮本 典和
(生産本部長)
- 取締役 百嶋 計 (社外・独立)
- 取締役 監査等委員 平田 文明 (社外・独立)
- 取締役 監査等委員 江黒 早耶香 (社外・独立)
- 取締役 監査等委員 武内 敬 (社外・独立)
- 取締役 監査等委員 富永 俊秀 (社外・独立)

■執行役員

- 上席執行役員 三宅 雅彦
(管理副本部長 兼 総務部長)
- 執行役員 山川 恭弘
(青島扶桑精製加工有限公司 総経理 兼 青島扶桑貿易有限公司 総経理
兼 扶桑化学(青島)有限公司 総経理)
- 執行役員 田中 寛之
(生産副本部長 兼 安全環境統括部長 兼 鹿島生産部長 兼 鹿島事業所長)
- 執行役員 二宮 主税
(ライフサイエンス事業部 営業開発本部長)



- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日
 中間配当金 毎年9月30日
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) ☎ 0120-782-031 [受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日および12/31~1/3を除く)]
 (インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

- 公告の方法: 電子公告とする(<https://fusokk.co.jp>)

- 上場金融商品取引所: 東証プライム

【利益配分に関する基本方針及び配当】

剰余金の処分につきましては、累進配当の考え方を採用しました。これにより一時的な理由による配当の変動を避けつつ、安定的な配当維持を目指すとともに、資本コストや株価を意識した経営を推進し、企業価値の向上に努めてまいります。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。

第69期の期末配当金につきましては、当期の業績を踏まえ、1株につき41円とさせていただきます。これにより既に実施済みの中間配当金41円を加えた年間配当金は、前期と比べ9円増配の、1株につき82円となります。次期の年間配当金につきましては、1株につき28円(内、中間配当14円)を予定しています。

なお、当社は2026年4月1日付で普通株式1株を3株に分割しており、次期の配当金は分割後の金額で表記しています。



FUSO  扶桑化学工業株式会社

<https://fusokk.co.jp>